

環境保全

事業活動に伴うエネルギーや資源の投入量、製品の生産量、環境負荷物質の排出量を把握し、省エネルギー、化学物質の排出削減、廃棄物の適正管理など環境保全に積極的に取り組んでいます。

北興化学工業の事業活動とインプット、アウトプット

(集計範囲：当社単体 集計期間：2016年12月1日～2017年11月30日)



*1 有害大気汚染物質(優先取組物質)のうち、当社において排出量の多い物質のみを記載しています。

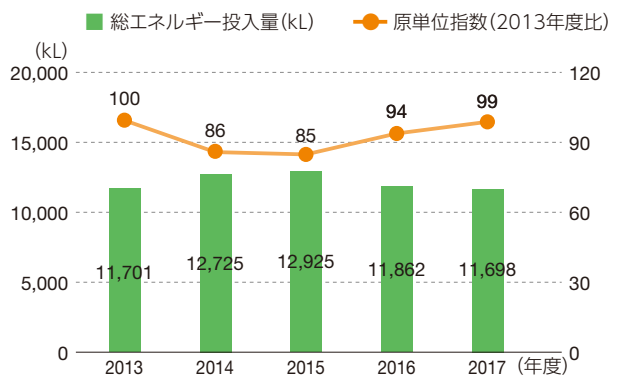
省エネルギーの推進

全社的なエネルギー管理体制を整え、設備、製造工程のさらなる見直し、LED照明をはじめとする省エネルギー設備の導入など、省エネルギー活動を推進しています。

2017年度の総エネルギー投入量は、2016年度比で1.4%減少したものの、製品構成の変化により、エネルギー原単位*2は、2016年度比で5.3%増加しました。

*2 エネルギー原単位については、事務所ごとの原単位変化率の加重平均から全体の原単位変化率を求め、2013年度を100とする原単位指数で表しています。また、2016年度の総エネルギー投入量については見直し、修正を行っています。

● 総エネルギー投入量[原油換算]

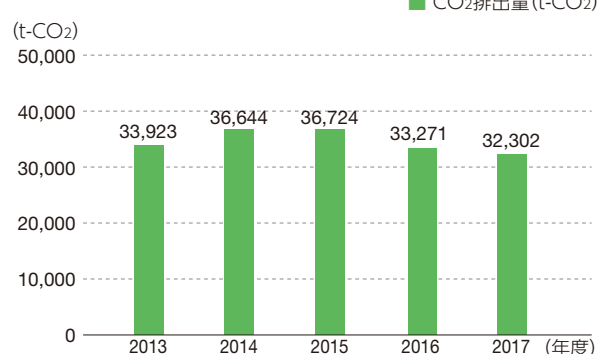


温室効果ガスの排出低減

エネルギーの使用、廃棄物の焼却により、温室効果ガスであるCO₂が発生します。当社では、省エネルギーを推進することで、CO₂の排出抑制に努めています。2017年度のCO₂排出量は、2016年度比で2.9%減少しました。

また、エアコンや冷蔵冷凍機器に使用されるフロン類は、オゾン層の破壊や地球温暖化を引き起こします。これらの機器については、点検を実施し、フロン類の漏えい防止に努めています。

● CO₂排出量



化学物質の排出削減

当社はPRTR法*1に基づき、毎年、製造・使用した第1種指定化学物質について、環境への排出量・移動量を国に届け出ています。2016年度は69物質が該当しました。当社では、排ガス処理設備など環境関連設備の導入を図り、化学物質の排出削減に努めています。

*1 PRTR法：化学物質排出把握管理促進法

*2 PRTR：Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)

排出量：環境中に排出した量

移動量：廃棄物処理業者に廃棄物の処理を委託した量

表では排出量が0.1トン以上のものについて、排出量の多い順に記載しています。数値は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため合計値が一致しない場合があります。また、排出量が0.1トン未満の物質については合算で記載しています。

●PRTR対象物質の排出量・移動量*2(2016年度)
(集計期間：2016年4月1日～2017年3月31日)

政令番号	物質名称	排出先・排出量(t)			排出量合計(t)	移動量(t)
		大気	水域	土壌		
300	トルエン	2.4	0.0	0.0	2.4	66.0
405	ほう素化合物	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0
392	ノルマルヘキサン	0.5	0.0	0.0	0.5	6.7
400	ベンゼン	0.3	0.0	0.0	0.3	11.4
438	メチルナフタレン	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
186	ジクロロメタン	0.2	0.0	0.0	0.2	2.0
342	ピリジン	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	その他(62物質)	0.1	0.0	0.0	0.2	63.2
	合計(69物質)	3.7	0.9	0.0	4.6	149.4

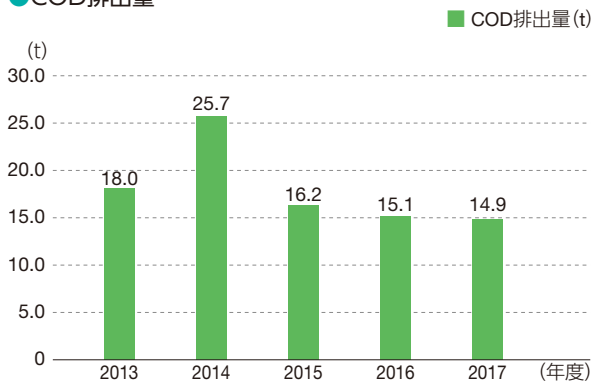
水質汚濁の防止

製造工程から発生した排水は、中和・活性汚泥・凝集沈降処理などにより、水質汚濁物質を取り除いてから、河川、海域に排出しています。排出に当たっては、法令などの規則に基づき適切に監視、測定を行っています。2017年度のCOD*3排出量は、2016年度比で1.3%減少しました。

*3 COD：Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量)

排水中の有機物汚濁を表す1つの指標で、数値が高いほど有機物により汚れていることを示しています。COD排出量は、平均COD×年間排水量で算出しています。

●COD排出量



廃棄物の適正管理

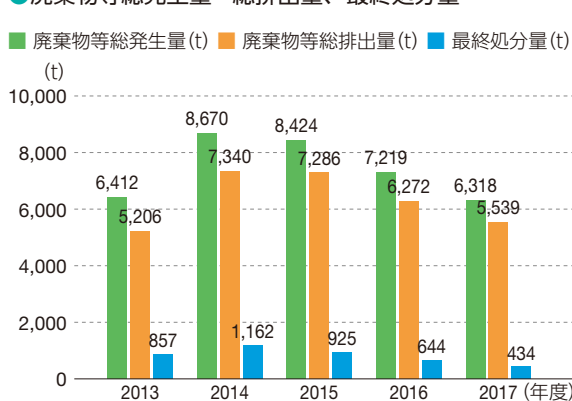
廃棄物については、3R(発生抑制：Reduce、再利用：Reuse、再生利用：Recycle)の推進、適正処理に取り組んでいます。

やむを得ず発生した廃棄物のうち、事業所において処理できるものについては、処理基準に従い焼却処理を行っています。事業所において処理できない廃棄物については、処理業者に処理を委託していますが、業者の選定に当たっては、現地確認を行うなどにより信頼できる業者を選定しています。

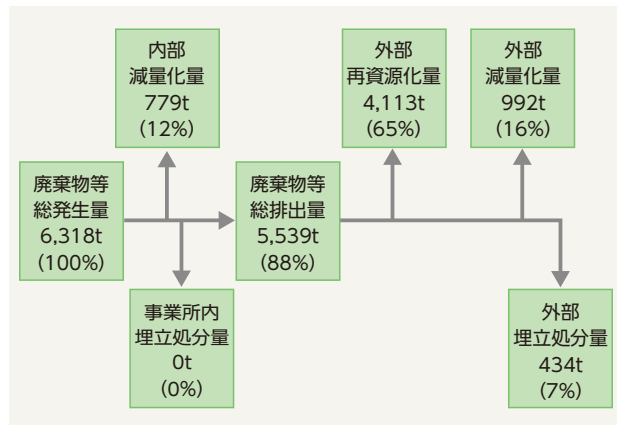
2017年度の廃棄物等*4総発生量は、2016年度比で12.5%減少しています。

*4 廃棄物等：廃棄物および製品の製造に伴い副次的に発生するもの(古紙や金属などの有価物も含む)

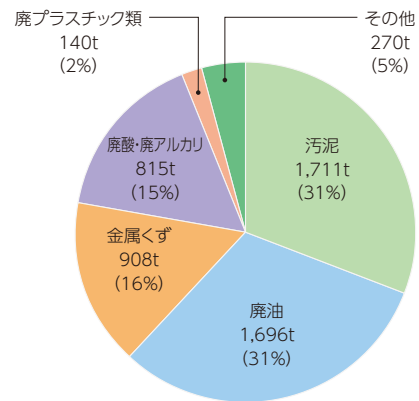
●廃棄物等総発生量・総排出量、最終処分量



● 廃棄物処理の流れ(2017年度)



● 廃棄物等総排出量の内訳(2017年度)



事業所別データ

● 2016年度および2017年度 事業所別環境負荷データ

項目	北海道工場		新潟工場		岡山工場		開発研究所・化成品研究所	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017
総エネルギー投入量(原油換算)(kL)	224	213	696	915	10,297	9,940	645	630
上水道使用量(千m ³)	4.1	3.7	16.8	16.9	352	333	8.8	7.7
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	582	534	1,464	1,881	29,812	28,530	1,413	1,356
SO _x 排出量(t)	0.3	0.3	0.0	0.0	6.7	5.9		
NO _x 排出量(t)	0.4	0.4	1.0	1.3	17.7	16.9		
総排水量(千m ³)	4.1	3.7	11.3	12.5	2,669	2,546	14.1	12.8
COD排出量(t)	0.03	0.02	0.01	0.01	15.1	14.9		
廃棄物等総排出量(t)	87	111	312	357	5,545	4,782	74	97

● 事業所別 PRTR対象物質の排出量・移動量(2016年度) (集計期間: 2016年4月1日~2017年3月31日)

北海道工場

政令番号	物質名称	排出先・排出量(t)			排出量合計(t)	移動量(t)
		大気	水域	土壌		
21	クロリダゾン (PAC)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
212	アセフェート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
261	フサライド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
360	ペノミル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
268	チウラム (チラム)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	その他 12物質	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	合計(17物質)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6

新潟工場

政令番号	物質名称	排出先・排出量(t)			排出量合計(t)	移動量(t)
		大気	水域	土壌		
53	エチルベンゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
80	キシレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
422	フェリムゾン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
261	フサライド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
49	ベンディメタリン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	その他 20物質	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	合計(25物質)	0.1	0.0	0.0	0.1	0.8

岡山工場

政令番号	物質名称	排出先・排出量(t)			排出量合計(t)	移動量(t)
		大気	水域	土壌		
300	トルエン	2.4	0.0	0.0	2.4	66.0
405	ほう素化合物	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0
392	ノルマルーヘキサン	0.5	0.0	0.0	0.5	3.9
400	ベンゼン	0.3	0.0	0.0	0.3	11.4
438	メチルナフタレン	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
	その他 34物質	0.2	0.2	0.0	0.3	62.7
	合計(39物質)	3.6	0.9	0.0	4.5	144.0

開発研究所・化成品研究所

政令番号	物質名称	排出先・排出量(t)			排出量合計(t)	移動量(t)
		大気	水域	土壌		
392	ノルマルーヘキサン	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
127	クロロホルム	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計(4物質)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0

※PRTRデータについては、排出量または移動量の多い順に5物質を記載しています。数値は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため合計値が一致しない場合があります。